

名古屋大学

NUA
archives
niversity
nagoya

大学文書資料室ニュース

Nagoya University Archives News 第25号 2008.10

目次
Contents

| | |
|------------------------------|---|
| 大規模な書庫整理を実施中です | 2 |
| 資料室だより① | |
| 名大史に関する資料をご寄贈、ご寄託ください | 3 |
| 史料紹介 名古屋学生会館資料—知られざる名古屋城の学生寮 | 4 |
| 70周年記念誌の編さんがはじまります | 5 |
| 資料室だより② | |
| 紀要16号を刊行しました—17号の投稿も募集しています | 6 |
| 資料室日誌（抄） | 7 |
| 企画展「伊吹おろしの若者たち」をおこなっています | 8 |



名古屋学生会館『らじょう門』（4～5頁を参照）

大規模な書庫整理作業を実施中です

大学文書資料室（以下、NUA）のウェブページでも案内していますが、NUA では今年4月から大規模な書庫整理作業などを行っています。現在、これにもなって閲覧等の各種サービスの一部を制限しており、利用者各位にはご迷惑をおかけしています。

以下、今回の書庫整理作業などの概要について紹介します。

保存資料増加への対応

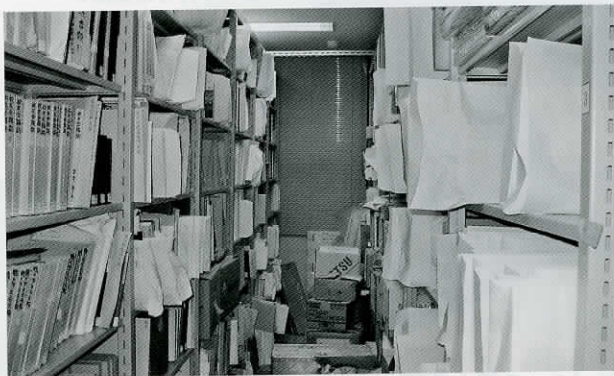
1996（平成8）年度に大学史編集室から大学史資料室へと改組されたNUAは、『名古屋大学五十年史』編さんのため収集した資料群を引き継ぐとともに、さらなる大学史資料の恒常的な収集・保存を行ってきました。

その結果、2007年度末での保存資料数は4万点以上、公開資料数は2万点以上になっており、その後も学内・学外から本学の歴史に関する記録史料を収集（受贈）しています。これらの資料群は、施設内の3つの主要書庫に収められていますが、重複した資料の整理や適正な配架などの必要性が高まってきました。

新検索システム移行への対応

2007年度以降、NUA ウェブページでは新旧2種類のオンライン検索システムを公開しています。新システムは、シンプルな操作画面でありながらも全文検索方式の特長を生かしたものとなっています。このシステムでは、利用者みずから検索結果データをダウンロードすることで自分の目的にあったオリジナルの資料目録を作成することも可能です。

NUA では、できるかぎり早い段階で旧システムの全データを新システムに統合することを予定していましたが、その実現が遅れていました。



整理作業開始前の書架

資料配架方法の変更

NUA では、これまで『名古屋大学五十年史』編さん資料群で採用していた配架方法を維持してきました。それは、前身校期資料→名古屋帝国大学期資料→旧制・新制名古屋大学期資料という年代順で大きく分けたもので、新制名古屋大学期以降は原則として『名古屋大学史資料室保存資料目録 第1集』（2000年3月発行）に掲載した順序（部局順）で配架する方法でした。

この配架方法は、特定部局に関連した資料群を通覧・検索する際には便利です。しかし、年々増加する資料を既存の資料群の中に割り込ませる必要があるため、書庫内のメンテナンス性に欠けるという面がありました。

また、この配架方法では、書庫内のどのエリアにどんな資料があるのかを経験的に熟知したスタッフでなければ、閲覧サービス等での資料出納を迅速に行えないという問題もありました。

今回の書庫整理のねらい

NUA において最も大きな規模となる今回の書庫整理作業では、上記の課題をできるかぎり解決することをめざしています。この整理作業が順調に進めば、2009年1月頃には閲覧等の各種サービスを再開できる予定です。その際には、公開対象となる全資料が新検索システムで一元的に検索できるようになり、利用者にとっての利便性も高まるものと思います。

現在、NUA では上記の課題をできるかぎり解決するために作業を鋭意進めていますので、今しばらくの間、資料の利用に際して一部制限がありますが、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



作業に伴う一時移動のために梱包された資料

資料室だより①

○名大史に関する資料をご寄贈、ご寄託ください

大学文書資料室では、毎年2千点から3千点におよぶ資料を受け入れ、永久保存に足るものかどうかを評価・選別し、保存することが決まったものには、必要な保存措置を施したうえで目録や検索システムに載せて、一般の公開に供しています（一部非公開の資料もあります）。

定期的に受け入れている資料としては、まず名古屋大学の公費によって刊行された印刷物があります。これは、刊行部数が多いために軽視されがちですが、むしろそれゆえに散逸しやすく、歴史資料としてはもとより、大学の業務参照資料としても大変有用なものです。各部局に重要な資料の具体的なリストを配布し、該当するものを取りまとめて移管してもらっています。また、書庫の不足などの諸事情により制約はありますが、日常業務には使われなくなった名大の事務文書（法人文書）も、各部局の事情に応じて移管をうけています。

そのほか、名大（前身諸学校を含む）の歴史にかかわる資料を、原所蔵者のご希望に応じて受け入れています。それらは、元教員や卒業生の個人資料、同窓会やクラブ・サークルの団体資料などさまざまです。本来、アーカイブズ（記録史料）は、それを生み出した個人・団体が自らの手で整理し、保存するのが望ましいと思います。しかし、それがなかなか難しいことも事実です。

そういった場合に、その受け皿としての役割を果たすのが大学文書資料室です。所有権を手放したくない方は、寄託という形で、資料を預けておくことも可能です。また、「名古屋大学大学文書資料室利用規程」には、寄贈者や寄託者の希望があれば、資料を非公開にできる規定もあります。

また、名大史に関係する資料の所在を把握するのも資料室にとっては重要な業務です。資料室にご寄贈・ご寄託いただくか否かとは別に、ご所蔵の資料、あるいはお知り合いの方がお持ちの資料の情報だけでも、ぜひお寄せください。

2007年度に大学文書資料室が受け入れた資料一覧（データ入力のみ、評価・選別は以後）

| 資料群名（仮） | 数量（点） | 方法 | 提供者（敬称略） | 備考 |
|-------------------|----------|----|----------------|--------------------|
| 平成18年度公費刊行物（名大） | 574 | 移管 | 各部局 | 医学系研究科・医学部未移管 |
| 広報プラザ所蔵資料 | 118 | 移管 | 広報プラザ | 展示に供しなくなったものを移管 |
| 総務課所蔵資料 | 93 | 移管 | 総務課 | 名大が作成・撮影したビデオテープなど |
| 工学部情報系 COE 事務室資料 | 57 | 移管 | 工学部情報系 COE 事務室 | 名大関係分のみを選定しデータ入力 |
| 東京農工大学旧蔵渋沢元治関係資料 | 546 | 受贈 | 高橋雄造 | 高橋氏は渋沢元治の孫弟子 |
| 岡部次郎氏旧蔵八高関係資料 | 135 | 受贈 | 岡部ひとみ | 今後も寄贈の可能性あり |
| 西川昌雄氏（名高商卒業生）旧蔵資料 | 113 | 受贈 | 山本幸江 | 山本幸江氏は西川氏長女 |
| 高田邦彦氏（名大文学部卒業生）資料 | 338 | 受贈 | 高田邦彦 | 一部は貸与 |
| 名古屋大学漕艇部資料 | 266 | 受贈 | 尾池高志 | |
| 経済学研究科法人文書 | ダンボール30 | 移管 | 経済学研究科 | 法人文書、データ未入力 |
| 国際課法人文書 | 52 | 移管 | 国際課 | 法人文書 |
| その他 | 1146 | | | |
| 合計 | 3438 + α | | | |

参考

| | | | | |
|------------|------|----|--------|------------------------|
| 経済学部・名高商資料 | 1919 | 入力 | 経済学研究科 | 依頼によりデータ入力のみ実施 |
| 八高卒業生提供資料 | 253 | 受贈 | 八高会 | 受贈は2008年度だが、本来は2007年度分 |

史料紹介

名古屋学生会館資料

—知られざる名古屋城の学生寮—

大学文書資料室では、手塚哲氏から、約1,000点の名古屋学生会館資料の寄贈を受け、整理を進めています。手塚氏は、名古屋大学文学部の卒業生で、学生会館の寮生であった方です。

「学生会館」といっても、現在の名大東山キャンパスにある学生会館のことではありません。1949（昭和24）年から1973（昭和48）年にかけて、名古屋城の二の丸にあった学生寮、名古屋学生会館です。

名大のかつての学生寮といえば、現在も国際喫煙館として名前が残る喫煙寮や、瑞穂キャンパスの元八高学寮、安城キャンパスの近くにあった碧明寮、豊川キャンパスに通う学生のための振風寮があります。しかし、この名古屋学生会館は、名大の管轄する寮ではありません。敗戦後、文部省の外郭団体である財団法人学徒援護会（敗戦前の財団法人動員学徒援護会を改組、現在の独立行政法人日本学生支援機構の前身）により、全国各地に学生会館が建設されましたが、その1つが名古屋学生会館でした。

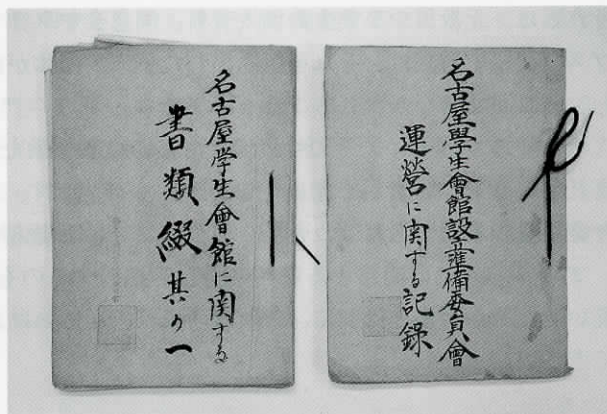
しかし、この名古屋学生会館は、名大文学部や法学部があった名城キャンパスに隣接していたこと、名大生が多く入寮していたことなどから、名大の歴史とも浅からぬ関わりがあります。とりわけその建設に際しては、名大はきわめて密接な関係を持っていました。この名古屋学生会館資料を永く保存する機関としては、やはり名大がふさわしいといえるでしょう。これまでこの資料を大切に保存し、今回ご寄贈いただいた手塚哲氏にはあらためて感謝いたします。

以下、この資料の概要についてごく簡単に紹介したいと思います。

まず、名大の歴史に直接関係するものとして、点数はわずかですが、名古屋学生会館（以下、学生会館）の建設に関する資料が挙げられます。

名大は、一貫して学生会館の建設運動を支援しますが、その一方で運動との複雑な利害関係も持っていました。つまり名大は、占領軍によって接収されていた、名古屋城二の丸の旧第6連隊の敷地や建物を、そ

の解除とともにキャンパスとして確保しようと動いていたからです。すでに建設前から旧連隊の建物で寝起きし、「学生会館」を名乗っていた学生たちにとって、名大のキャンパス計画との関係は微妙なものがありました。名大の名城キャンパス取得の経緯については、史料的な制約から十分に明らかになっておらず、それを補えるきわめて貴重なものといえます。



名古屋学生会館設立準備委員会資料

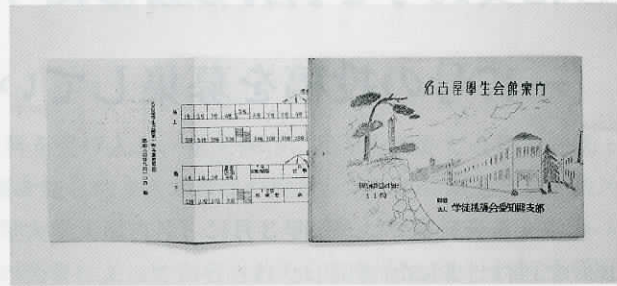
次に、雑誌『らじょう門』や『名古屋学生会館新聞』などの、学生会館が刊行していた出版物があります。特に『らじょう門』（らじょう（羅生）門とは、名古屋城二の丸東鉄門の異称）は全巻がそろっており（一部は複写製本）、学生会館の動向はもとより、寮生たちの生活や意識を知るにも好適な史料になっています（本ニュース表紙に写真があります）。とくに同誌第7号（1957年）に掲載されている手塚哲氏による「名古屋学生会館の歴史」は、学生会館に残されていた資料とご自身の記憶や伝聞などをまじえ、建設から草創期の状況を綴った貴重な手記です。この手記は、手塚哲『名古屋学生会館の歴史一行かざりし道のしるべに一』、2004年、非売品、名古屋学生会館資料にも所収）にも収められています。また、同誌の原稿や編集関係の資料も残っています。

そして、数的に最も多いのは、1950年代前半を中

心とする、学生会館の運営に関する資料です。名古屋学生会館の運営は、大きな特徴を持っていました。他地域の学生会館も、寮生による自治はおこなわれていましたが、名古屋のそれは非常に徹底していました。運営資金は、文部省の予算が学徒援護会を通じて確保されるものの、その運営は他の機関や団体の介入を基本的に許すことなく、専ら寮生たちによる自治委員会がおこなっていたのです。おそらく日本史上でもきわめて稀有な事例であり、その運営資料の重要性がいやまずゆえんです。

以上のように、この名古屋学生会館資料は、名古屋ひいては日本の学生史はもとより、名古屋大学の歴史

を語るうえでもきわめて貴重な資料群です。資料室では、整理を進めるとともに内容を精査し、可能なものは一般公開していきたいと考えています。



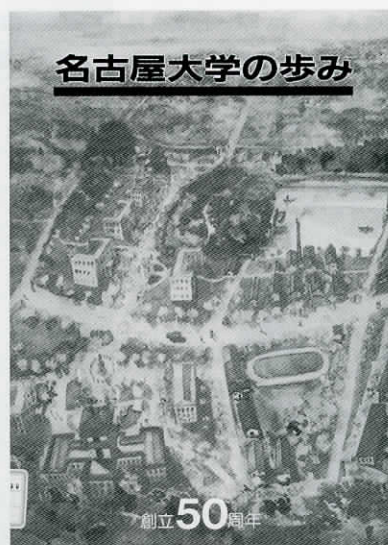
『名古屋学生会館案内』（学徒援護会愛知県支部、1949年）

○70周年記念誌の編さんがはじまります

名古屋大学は、1939（昭和14）年に名古屋帝国大学として創立され、来年は70周年を迎えます。創立70周年記念事業委員会が組織され、来年10月の記念式典など様々な事業がおこなわれます。

そして、この記念事業の1つとして、70周年記念誌が刊行されることになりました。内容は、写真を中心に、説明文や年表、基本データなどを加えた、分かりやすく親しみやすい150頁程度のものにします。編さん体制は、創立70周年記念事業委員会の下に執筆委員会が置かれ、これを大学文書資料室が支援することになっています。刊行は来年9月の予定です。

つきましては、とくに最近20年間を中心に、写真その他の資料等をお持ちでしたら、まずは大学文書資料室へご一報いただければ幸いです。



創立50周年（1989年）に刊行された記念誌『名古屋大学の歩み』（B5版、48頁）。表紙は名古屋帝国大学創立記念の絵はがき。

資料室だより②

○紀要16号を刊行しました

—17号の投稿を募集しています—

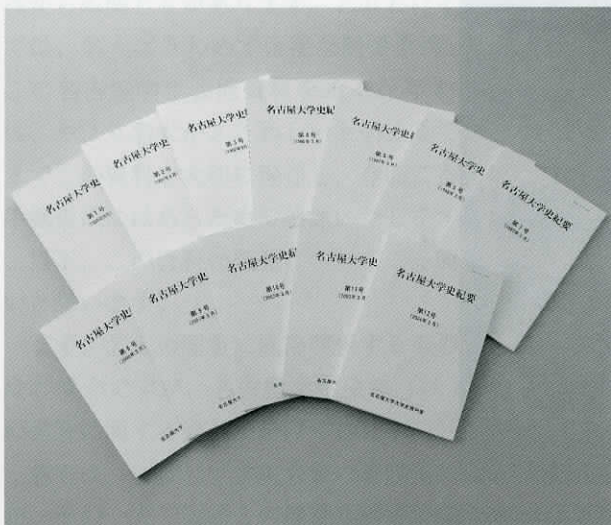
大学文書資料室では、毎年3月に『名古屋大学大学文書資料室紀要』を刊行しています。今年の3月には、第16号を刊行しました。

本紀要は、1989（平成元）年9月、当時『名古屋大学五十年史』などの編さんにあたっていた名古屋大学史編集室により、『名古屋大学史紀要』として創刊されました。五十年史の完成後、編集室は名古屋大学史資料室（1996年）、ついで名古屋大学大学史資料室（2001年）へと改組されます。

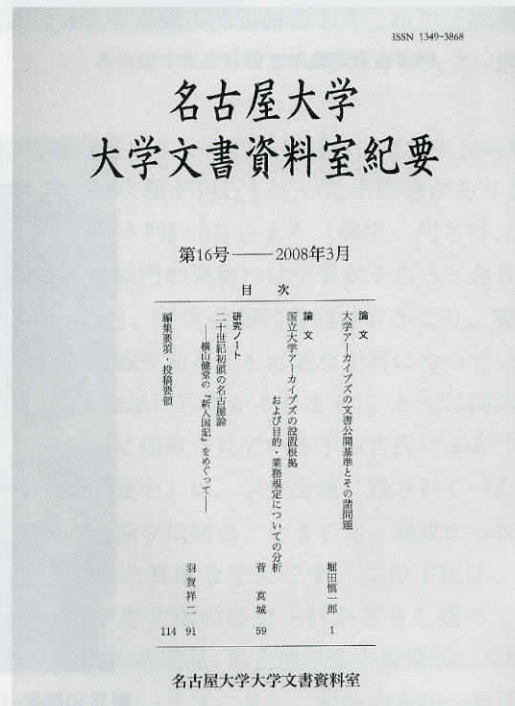
そして2004年4月、大学アーカイブズとしての本格的な活動に向けて、名古屋大学大学文書資料室に改組し、名実ともにアーカイブズ機能を備えた機関としてリニューアルしました。これにともない、紀要も、従来の名古屋大学史、高等教育史に加え、アーカイブズ学（記録史科学）に関するものも本格的に掲載することとして、現在の誌名に改称しました（号数は継続）。

本紀要の特徴は、学内のみならず、学外にも広く投稿の門戸を開いていることです。これは、我が国ではアーカイブズ学の学術誌がきわめて少ないことに鑑み、本誌がその役割の一端を担おうと考えたからです。投稿された論稿は、大学文書資料室運営委員会紀要編集専門委員会によって審査し、採否を決定しています。

今年は、エントリーの締め切りが10月31日、投稿の締め切りが12月15日です。詳しくは、大学文書資料室までお問い合わせください（本ニュース裏表紙参照）。



『名古屋大学史紀要』第1～12号。誌名の変更にともない、表紙もリニューアルした。



『名古屋大学大学文書資料室紀要』第16号（A5版、112ページ）。

資料室日誌 (抄)

- 2月2日 豊田講堂改修竣工式・同竣工記念ホームカミングデイにおいて、企画展「豊田講堂のあゆみ」を開催。
- 2月4日 山本幸江氏より、名高商卒業生西川昌雄氏旧蔵資料を受贈。
- 2月6日 東京農工大学の高橋雄造教授より、初代総長渋谷元治の旧蔵資料を受贈（3/3にも追加受贈）。
- 2月7日 名古屋大学交響楽団から資料を受託、資料の今後の取り扱いについて協議（2/28にも）。
- 2月14日 堀田慎一郎室員が核融合アーカイブズ共同研究全体会議に出席し報告（於核融合科学研究所）。
- 2月15日 西川輝昭博物館長と八高創立100周年記念企画展示について協議（以後、3/31、4/23、6/11、7/22、8/11、8/29）。
- 2月18日 西川博物館長と山口室員が八高会を訪問し、八高展示について協議。
- 2月19日 大阪大学文書館設置準備室の菅真城講師が来室し、本室を視察・調査。
- 2月25日 (株)アマゾンが来室し、NHK 特集番組作成のための資料撮影。
- 3月5日 立教大学より来室、自校史教育について調査。
- 3月12日 尾池正一氏旧蔵漕艇部資料を受贈。
- 3月18日 羽賀祥二室長が創立70周年記念行事委員会に出席（以後、4/15、7/11）。
- 3月19日 皇學館大学館史編纂室から、渡辺寛室長、大平和典室員が来室し、資料を調査・撮影。
- 3月25日 秘書課と創立70周年記念誌について協議（以後、4/3、4/25、6/9、6/16、7/2、7/18）。
- 3月26日 羽賀室長が創立70周年記念事業の大学歴史資料展示企画 WG に出席（5/28も同）。
- 3月27日 八高会の要請により、山口室員が八高創立100周年記念誌編集委員会に出席。
- 3月31日 『名古屋大学大学文書資料室紀要』第16号、『名古屋大学大学文書資料室ニュース』第24号を刊行。
- 福崎真由子事務補佐員が退職。
- 4月1日 青木千絵事務補佐員と中村史信事務補佐員が着任。
- 4月2日 新任教員研修会場にて本室活動紹介ポスターを展示。
- 4月4日 ホームページに、書庫整理のため資料閲覧業務等の一部休止を掲載。
- 4月15日 堀田室員が、新規採用職員研修で「名古屋大学の歴史について」を講演。
- 4月16日 坂公恭特任教授より資料受贈。
- 4月21日 耐震工事にともない預かっていた、大道寺家文書を博物館へ返却。
- 4月22日 室員がホームカミングデイ実行委員会に出席（7/24も同）。
- 4月30日 八高会事務所を訪問し、卒業生から寄せられた資料を受贈。
- 5月2日 地階に書架を設置し、本格的な書庫整理作業を開始。
- 5月13日 山口室員が豊田講堂概要パンフ作成 WG に出席（7/16も同）。
- 5月16日 西川博物館長と山口室員が医学部を訪問し、「戸刈文庫」を検分。
- 5月23日 大学院理学研究科坂田記念史料室より、坂田資料のマイクロフィルムを受領。
- 5月27日 大学文書資料室運営委員会（第15回）を開催。
- 6月6日 内山晋名誉教授より資料受贈。
- 6月19日 柴田義守氏が来室し、柴田邵平資料の取り扱いについて協議。
- 6月25日 八高会から外村孝氏来室、資料を受領し、八高100周年記念祭とホームカミングデイの日程などについて打ち合わせ。
- 7月30日 平成19年度作成印刷物の提供を各部局に依頼。
- 8月5日 総務部総務課から資料移管（8/28にも）。
- 8月22日 法学部図書室へ『法政論集』（92冊）を移管。
- 8月29日 杉山理事、西川博物館長と創立70周年記念事業の大学歴史資料展示について協議。

○名古屋大学博物館で

企画展「伊吹おろしの若者たち」をおこなっています

現在、名古屋大学博物館にて、大学文書資料室と博物館の共催により、企画展「伊吹おろしの若者たち—八高創立100周年の歴史から—」をおこなっています。

旧制第八高等学校（1908～1950）は、名古屋大学旧教養部の前身であり、その教養教育の源流でもあります。大学文書資料室では、この八高の歴史にかかわる資料の収集に努めてきましたが、とくに3年ほど前から、八高会（八高の同窓会）を通じて、卒業生の方々から600点近くの資料の寄贈をうけました。資料室所蔵のこれらのコレクションは、名古屋大学の歴史だけではなく、日本の高等教育史を語るきわめて貴重な資料群です。

この企画展では、八高生の群像をテーマに、これらの資料群の中から厳選して展示しました。また、名古屋市博物館も八高の貴重な資料が多数所蔵していますが、今回はその一部も借用して展示されています。展示は、日曜日と月曜日をのぞく午前10時から午後4時まで、入場料は無料です。展示会場では、八高の歴史を貴重な写真で概観する図録を配布しています（数に限りがあります）。会期は11月8日（土）までです。ぜひご来場ください。

「伊吹おろしの若者たち」は、何を学び、何を悩み、どのような青春をおくっていたのでしょうか。最近、そのあり方が問われている、大学の教養教育を考えるきっかけにもなれば幸いです。



今回展示されている、八高生が使っていたマント
(名古屋市博物館所蔵)

第15回名古屋大学博物館企画展

伊吹おろしの若者たち

—八高創立百年の歴史から—

2008年
10月7日(水)～11月8日(土)

場 所：名古屋大学博物館
開館時間：午前10時～午後4時 入場料 無料
休 日：日曜日・月曜日
特別講演会
日 時：10月29日(金) 午後1時30分から
場 所：博覧館 3階講義室
山田拓史(名古屋大学文学部教授) 講演
「寸播—第八高等学校」

名古屋大学博物館
Tel: 052-789-5767 Fax: 052-789-5896
URL: <http://www.nium.nagoya-u.ac.jp/>
主催：名古屋大学博物館、名古屋大学大学文書資料室

名古屋大学大学文書資料室ニュース 第25号 Nagoya University Archives News No. 25

名古屋大学大学文書資料室

室 長 羽 賀 祥 二 (教授・兼任)
専任室員 山 口 拓 史
堀 田 慎一郎
専門職員 武 藤 英 幸
主 任 奥 谷 明 稔
事 務 員 増 田 よしみ

発行日 2008年10月20日 (年2回刊)
編 集 行 名古屋大学大学文書資料室
名古屋市中種区不老町〒464-8601
電話：(052) 789-2046
FAX：(052) 788-6222
E-mail: nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp
印 刷 株式会社荒川印刷
名古屋市中区千代田2-16-38